



夢追人VI

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第3号(R4. 4. 13)

12日は、盛りだくさんのプログラム
～発育測定、交通安全教室、対面式、部活動紹介、
体育祭ブロック抽選会を一挙に行いました～



入学式では、在校生は歓迎の言葉を述べる副会長の山口さんだけの出席でした。公式に新入生と在校生が初めて顔を合わせるのが対面式です。7年生代表朴さんが凛々しく先輩たちへ誓いの言葉を述べてくれました。

新入生の今の大きな関心事の一つは部活動をどれにするかでしょう。8・9年生の部活生は、どの部も趣向を凝らして活動内容や練習方法などを紹介してくれました。日々の活動の中でどういう練習をしたり、どんな作品を作ったりしているのかを、それぞれの部のパフォーマンスで表現豊かに表していました。



体育祭ブロック抽選の結果

	赤	緑	青	黄	ピンク	白
7年生	1組	2組	6組	4組	3組	5組
8年生	1組	3組	5組	6組	4組	2組
9年生	2組	1組	5組	3組	6組	4組

ウサギはどうしてカメに負けたのか？ ～落語家・三遊亭歌之助さんが語るイソップ物語～



落語家に三遊亭歌之助さんという人がいる。28歳の時に、林家こぶ平さんと一緒に真打ちに昇進した。真打ちというのは、一座で最も優れた人で最後に登場する人である。

真打ちが発表されると、二人がいる部屋にマスコミが取材に押し寄せた。しかし、マスコミが注目しフラッシュをあびるのは、こぶ平さんだけだった。こぶ平さんは、林家三平という名人落語家の子どもであとつぎだったからだ。

そばにいる歌之助さんには、誰も見向きもしなかった。歌之助さんは、くやしくてその場を抜け出し電車に飛び乗った。

すると、偶然、知り合いである化粧品会社の養田実社長が乗り合わせていた。「歌さん、浮かぬ顔をしてどうしたんだ？」と聞かれ、わけを話した。

養田社長は、「ウサギとカメの話があるだろう。ウサギはどうしてのろまのカメに負けたのか、言ってごらん。」歌之助さんは、こう答えた。「ウサギにはいつでも勝てるという油断があった。人生、油断してはいけないといういましめです。」養田社長は、「それは、0点の答えだ。」と語気を強めて言った。

養田社長はこう続けた。「カメにとって、相手はウサギでもライオンでもよかったはずだ。なぜなら、カメはゴールまで一度も相手を見ていない。カメは旗の立っている頂上、つまり人生の目標だけを見つめて歩き続けた。一方のウサギは常にカメのことばかりを気にして、大切な人生の目標を一度も考えることをしなかった。君の人生は、こぶ平君との競争ではないはずだ。賢いカメになって自分の道を歩き続けなさい。」

歌之助さんは、この一言ではっと我に返り、迷いは吹っ切れたそうです。人と比べて落ち込んだり、逆に優越感にひたったりするのはくだらないことだと思ったそうです。これからの人生、ひたすら自分の落語を追究し技を磨こう、自分の人生の目標に向かって黙々と歩き続けようと思った、と歌之助さんは言っています。

河東中生のみなさん、勉強でも部活動やクラブチームでも、他人と競争する必要はありません。競争すべきは過去の自分です。昨日の自分、一年前の自分より少しでも進歩し成長していればそれでいいのではないのでしょうか。

